

兵庫県立大学 姫路工学キャンパス施設整備

平成26年11月12日

整備の目的

工学部・工学研究科を擁する姫路工学キャンパス

◇主要な施設は築後45年前後が経過し、老朽化・狭隘化が深刻化

建て替え方式による施設整備を行い、機能強化を図っていく必要がある。

◇創造力あふれる人材の育成や新技術の創出

新たな時代のニーズにこたえるために

- (1) 世界に貢献する最先端工学研究・教育拠点の構築
- (2) 優れた技術を持つキラリと光る人材を輩出する
地域産業密着型研究・教育拠点の構築
- (3) 「社会人基礎力」を身に付け、社会のリーダーとなる有為な人材の育成
- (4) 地域産業界から一層頼りにされる産学連携・地域支援拠点の構築

新しい姫路工学キャンパスの整備方針

整備コンセプト

◎「最先端工学研究・人材育成・地域支援の拠点」として

- ◇学生がキャンパスに愛着をもち卒業後もそれが抱き続けられるように、姫路工学キャンパスのシンボルとなる建物を整備
- ◇その他の建物のデザインも魅力的なものに
- ◇最先端研究拠点というコンセプトを明確に表現できるデザインに
- ◇学生等の活気溢れる情景が実際に見て感じられるキャンパスに
- ◇機能的かつ効率的なキャンパス利用が可能なゾーン分けを導入

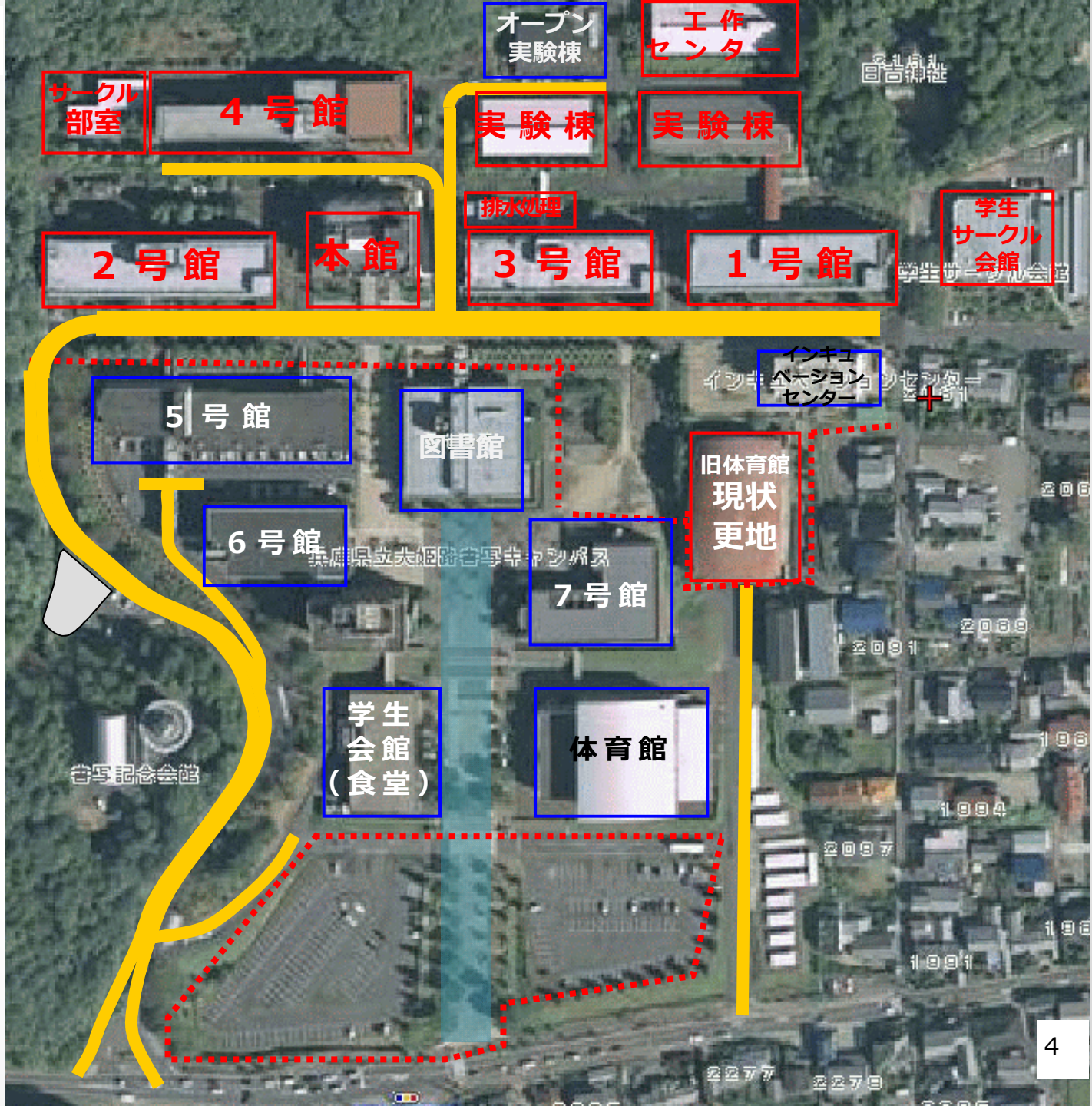
現建物配置図

建替対象

- ・ 本館
- ・ 1号館（機械系）
- ・ 2号館（電気系）
- ・ 3号館（物質系）
（・ 化学排水処理施設）
- ・ 4号館（総合教育）
（理学・工学含む）
- ・ 機械系実験棟
- ・ 物質系実験棟
- ・ 工作センター
- ・ 学生サークル会館
- ・ サークル部室

対象外

- ・ 5号館（総合教育）
- ・ 6号館（電気・機械系）
- ・ 7号館（総合教育・情報）
- ・ 図書館
- ・ インキュベーションセンター
- ・ 学生会館（食堂等）
- ・ 体育館



新しい研究・教育施設等の整備

◎ 立地条件と研究・教育に適した建物の配置を目指し、立地条件を活かしたキャンパス機能のゾーン化の考えを新たに導入します。

Level 0 :

・ 交流・発信を主体とするゾーン

◆ 新本館兼講義・交流館

Level 1～Level 2 :

・ 学習・研鑽を主体としたゾーン

工学・理学・環境人間学の1年生が主に総合教育を受ける。

Level 2～Level 3 :

・ 研究・実験を主体とするゾーン

学術情報館が「研究・学習をつなぐ拠点」

工学部・工学研究科（理学部・物質、生命科学研究科の一部含む）の専門教育や研究を行う。

◆ 新1, 2号館（専門教育研究棟）

◆ 新3号館（最先端研究棟 センター等集約）

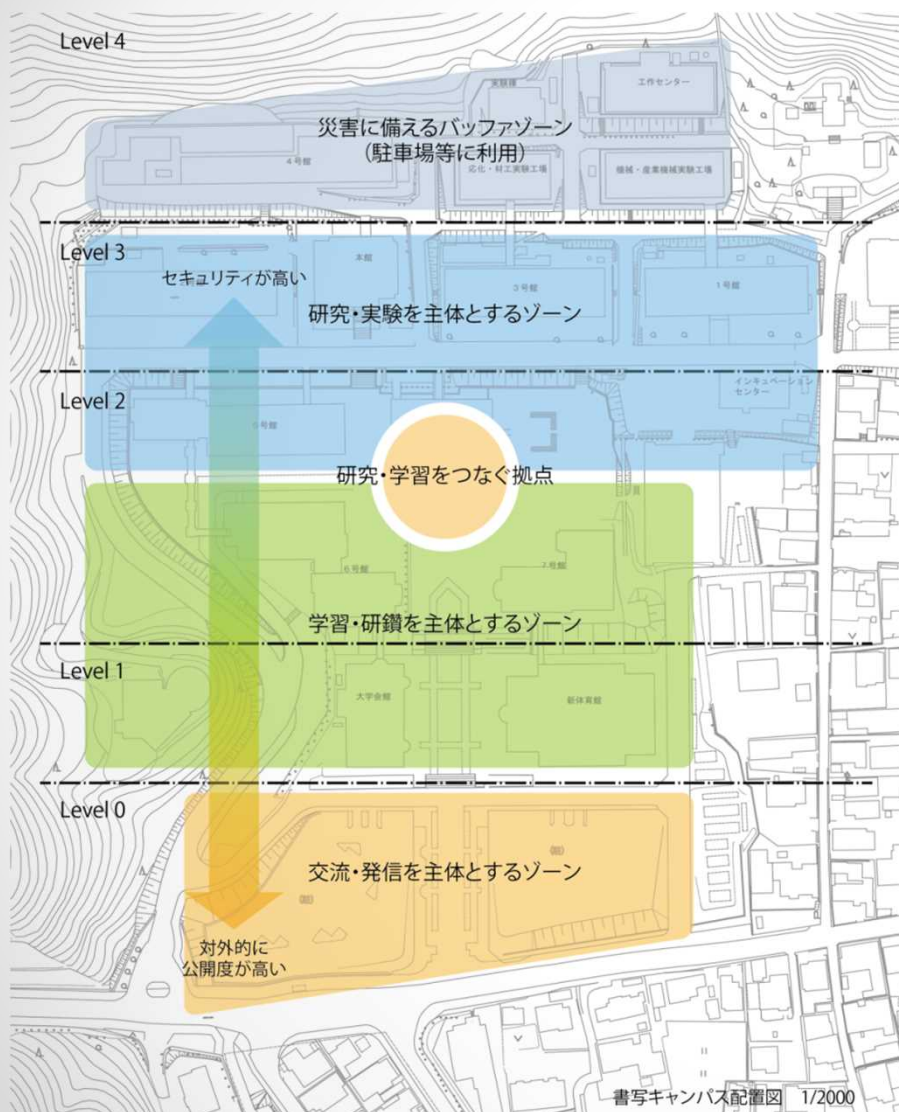
◆ 新4号館（工作センター：ものづくり教育）

Level 4 :

・ 災害に備えるバッファゾーン

駐車場や学生が憩える緑地など

その他 ◆ 学生サークル会館・部室





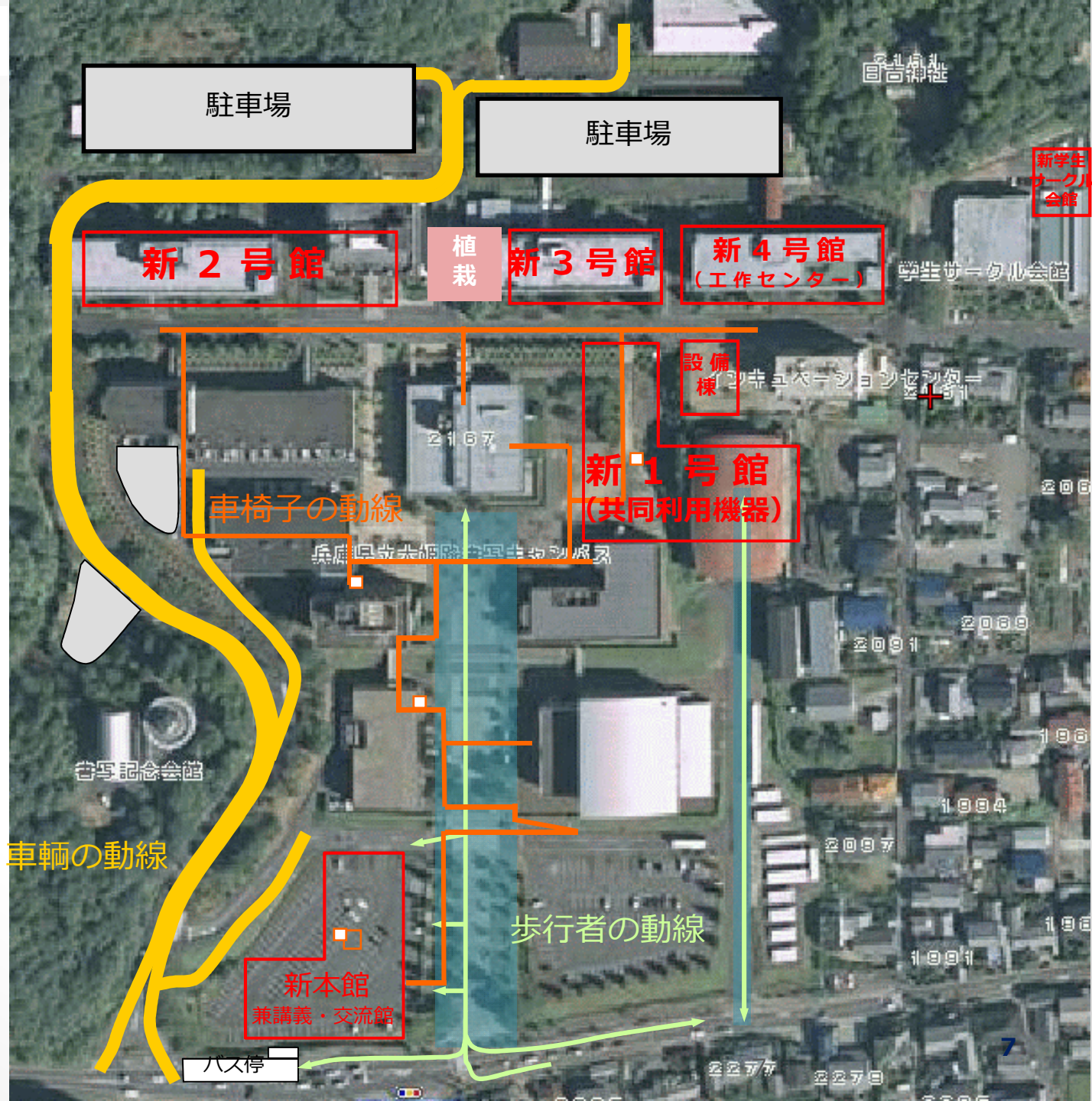
◎新施設と旧施設を融和し、キャンパス全体の機能強化、効率化を図ります。

- ・各ゾーンがつながることで、学生にとってより充実した学習・研究環境となり、教育面においてもキャンパス全体が機能
- ・「研究・実験を主体とするゾーン」の新旧の施設が有機的に結びつくことで、学際的でより高度な研究へ向けて、先端研究や専攻を超えた研究が可能な環境
- ・「交流・発信を主体とするゾーン」を通して地域とつながることで、研究・教育の成果が地域産業、地域住民へと還元

新建物配置図

建替对象

- ・新本館兼講義・交流館
- ・新1号館（電気系）
（共同利用機器集約）
- ・新2号館（機械・物質系）
（理学部含）
- ・新3号館（先端研究）
- ・新4号館（工作センター）
- ・新学生サークル会館
（部室）
- ・設備棟
（上下水・電気等）
（化学排水処理施設含）



姫路工学キャンパス施設整備全体イメージ（鳥瞰図）



整備スケジュール

整備棟名	整備年度									
	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34	H35
新本館	設計	建設								
新1号館		設計	建設							
新2号館					設計	建設				
新3号館								設計	建設	
新4号館								設計	建設	
学生サ-クル会館				設計	建設					
設備棟	設計		建設							
共同溝			建設							